

小学校歴史授業における語りとしての歴史マンガの取り扱い —安土桃山時代単元の場合—

A Treatment of Comics as a Kind of Historical Narrative in Elementary History Classes:
The Case of the Azuchi-Momoyama Period Unit

服部 一 秀* 小笠原 咲**
HATTORI Kazuhide OGASAWARA Saki

要約：本稿は、小学校の歴史授業における歴史マンガに関するメタヒストリー学習の現実的で効果的な在り方を明らかにしようとするものである。歴史マンガは小学校の児童にとって最も身近にある歴史の一つである。そのような歴史マンガとのかかわり方は、児童のそれからの日常における様々な歴史とのかかわり方を左右するに違いない。そうであるとすれば、歴史マンガと熟考的にかかわっていくことができるように育むため、歴史授業における歴史マンガの取り扱いを改めなければならない。そこで本稿では、歴史マンガが比較的良好に取り上げられる安土桃山時代単元に即して、過去についての語り（ナラティブ）として歴史マンガを取り扱うメタヒストリー学習の授業実践化について検討し、その現実的で効果的な在り方を明らかにする。

キーワード：マンガ（漫画）、語り（ナラティブ）、身のまわりの歴史、メタヒストリー、小学校

I はじめに

歴史的な題材を扱うマンガ¹⁾は、過去についての一種の語り（ナラティブ）であり、小学校の児童にとって最も身近にある歴史の一つである。そのような歴史マンガは多くの小学校の図書館や公共の図書館にもおかれており、児童に人気の図書である。歴史学習を行う第6学年の教室に常備されることも少なくない。そのような歴史マンガとのかかわり方は、児童のそれからの日常における様々な歴史とのかかわり方を左右するに違いない。

それにも拘わらず、児童が歴史マンガとのかかわり方を学ぶ機会は保証されていない。第6学年の歴史授業で歴史マンガが取り上げられることは珍しくないけれども、あたかも過去の再現であるかのように無批判的に扱われることが殆どである。“学習マンガ”として刊行されたものが取り上げられることが多いためか、過去についての語りとして批判的に扱われることは稀である。身のまわりの他の歴史とのかかわり方を学ぶ機会が保証されているわけでもない。それでは様々な歴史が溢れる社会の中で、それらに呑み込まれることなく、熟考的にかかわり、自らの歴史認識を築いていくことは難しい。

確かに、既存の歴史とのかかわり方を学ぶ機会は中学校や高等学校で保証すればよいという考えもあるだろう。しかしながら、過去について取り組む能力も、過去を扱った既存の歴史について取り組む能力も、何れもが自らの歴史認識を築いていくための基盤となるものである²⁾。本来、それらの両方を小学校から段階的に育成していくことが望ましい。小学校でも可能であるなら

* 教育実践創成講座 ** 教育実践創成専攻大学院生

ば、中学校や高等学校からと言わず、小学校から既存の歴史について取り組む能力の育成を開始すべきであろう³⁾。

そこで本稿では、小学校の歴史授業における歴史マンガの取り扱いを現実的に一歩すすめるべく、その新たな取り扱いの可能性を明らかにするため、歴史マンガという既存の歴史に関するメタヒストリー学習⁴⁾の授業実践化について具体的に検討する。小学校第6学年の安土桃山時代に関する学習单元において歴史マンガが比較的良好に取り上げられることから、安土桃山時代の人物や出来事などを題材にした歴史マンガに関するメタヒストリー学習の授業実践化について検討し、第6学年の個別の单元における歴史マンガの取り扱いの一つのモデルを提供したい。安土桃山時代单元における歴史マンガに関するメタヒストリー学習の位置づけと基本設計について説明し、それに基づく具体的な学習指導計画を示し、最後に小学校の歴史授業における歴史マンガの現実的で効果的な取り扱いについてまとめよう。

II 安土桃山時代单元における位置づけと基本設計

先ず、安土桃山時代单元において歴史マンガに関するメタヒストリー学習を現実的に可能にするための位置づけ、そして、歴史マンガという既存の歴史について取り組む能力を育成するための基本設計を説明しよう。

1. 歴史マンガに関するメタヒストリー学習の位置づけ

安土桃山時代に関する单元では通常、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の天下統一への歩みが順次取り扱われる。そのような安土桃山時代单元において、図1のように、歴史マンガに関するメタヒストリー学習を位置づけることとする。

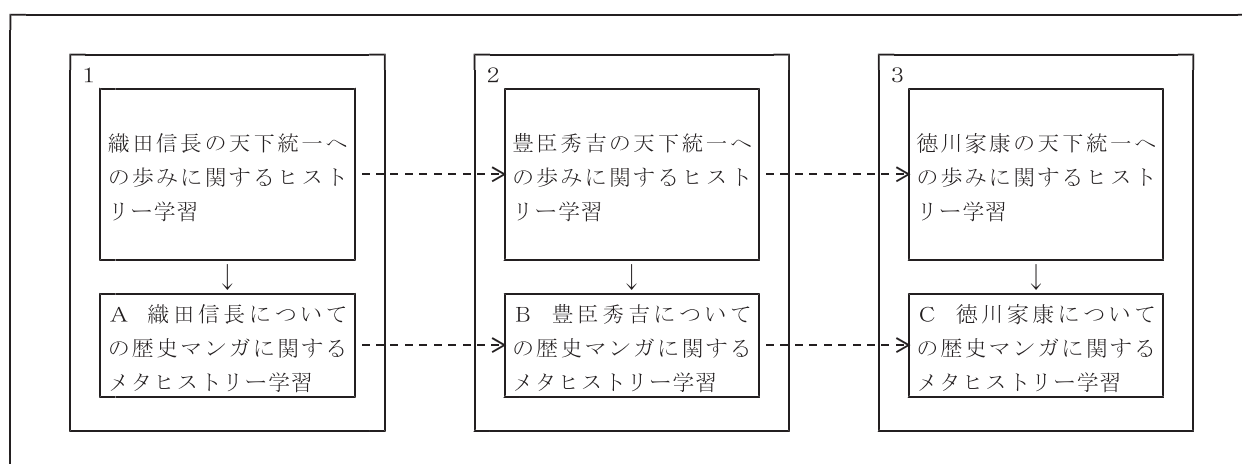


図1 安土桃山時代单元における歴史マンガに関するメタヒストリー学習の位置づけ

図1の通り、この单元では、過去の事象に関するヒストリー学習から、過去の事象を扱う現在の歴史マンガに関するメタヒストリー学習へ展開させることを基本原則とする。安土桃山時代について初めて学ぶ小学校第6学年の児童にとって、いきなりメタヒストリー学習に取り組むことは難しいためである。尤も、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の天下統一への歩みに関するヒストリー学習を一通り行ってから歴史マンガに関するメタヒストリー学習を行うわけではない。3人それぞれの人物を中心とするヒストリー学習の度ごとにメタヒストリー学習を後続させる。そうすることで織田信長・豊臣秀吉・徳川家康という3人全てについての歴史マンガに取り組む機会を保証し、児童

が歴史学習の成果を即座に活かせるようにもする。また、短時間ずつであってもメタ歴史学習の機会を増やし、歴史マンガとの熟考的なかわり方を段階的に育成できるようにする。

このように織田信長・豊臣秀吉・徳川家康という各々の人物を中心とする先行の歴史学習にメタ歴史学習を後続させ、それによってA・B・Cという歴史マンガに関する3つのメタ歴史学習を単元のなかに位置づけ、熟考的なかわり方の段階的な育成を目指す。

2. 歴史マンガに関するメタ歴史学習の基本設計

織田信長・豊臣秀吉・徳川家康のそれぞれの歴史学習に後続するA・B・Cのメタ歴史学習の設計ポイントを整理したものが表1である。

表1 安土桃山時代単元におけるメタ歴史学習A・B・Cの設計ポイント

		[A] 織田信長のマンガ描写に関するメタ歴史学習	[B] 豊臣秀吉のマンガ描写に関するメタ歴史学習	[C] 徳川家康のマンガ描写に関するメタ歴史学習
ねらい		小学生向けの歴史マンガの描写を批判的に読解できるようになること (歴史マンガの基本的性格の理解と批判的読解のための基本的着眼点の習得)		
学習の内容		歴史上の同じ人物や出来事を扱っていてもマンガによって描き方が異なりうること、歴史マンガは歴史上の人物や出来事の事実をそのままに再現したものではなく、作者が一定の意図のもとに描いた物語作品であること		
		主人公が異なれば、歴史上の人物や出来事の描き方が異なること	主人公が同じであっても、評価する観点が異なれば、歴史上の人物や出来事の描き方が異なること	主人公が異なれば、歴史上の人物や出来事の描き方が異なること、主人公が同じであっても、評価する観点が異なれば、歴史上の人物や出来事の描き方が異なること
		批判的読解のための基本的着眼点：ストーリー（登場人物、場面など）、歴史上の事象との関連、歴史上の事象の描写の特色（誇張・創作を含む）、表現内容、作者の視点・立場、表現の意図など		
学習の対象	素材	主人公が違う2つの対照的なマンガの描写	主人公が同じ2つの対照的なマンガの描写	1つのマンガの描写
	課題	小学生向けの人物中心の歴史マンガの一部		
学習の過程		織田信長の天下統一への歩みについて学んだことを活かして、2つのマンガを読み比べ、それらの違いの訳を考えてみましょう。		
		豊臣秀吉の天下統一への歩みについて学んだことを活かして、2つのマンガを読み比べ、それらの違いの訳を考えてみましょう。		
学習の活動方法		徳川家康の天下統一への歩みについて学んだこと、これまで歴史マンガについて学んできたことを活かして、1つのマンガを読み、その内容の訳を考えてみましょう。		
		描写の内容の理解とそれを踏まえた描写の理由の認識による課題解決の過程		児童主体の課題解決
		教師主導の課題解決		児童主体の課題解決
		複数の描写の対比的な特色づけや視点・立場の対比的な分析		異なる描写の仮想に基づく特色づけと視点・立場の分析（グループワーク中心）
		比較の重視		

A・B・Cのメタ歴史学習の設計においては次の5点を重視する。

第1は、学習のねらいについてであり、A・B・Cの学習全体を通して、児童が小学生向けの歴史マンガの描写について、それを事実そのままのものとして無批判的に鵜呑みにするのではなく、一定の視点・立場などに基づいてつくられているものとして受けとめ、批判的に読み解けるようになることをねらうことである。歴史マンガとの熟考的なかわり方を育むため、まずは小学校段階では小学生向けの平易な歴史マンガの描写を批判的に読み解けるようにすることをねらう。

第2は、そのようなねらいに基づく学習の内容についてであり、小学生向けの歴史マンガの描写を批判的に読み解けるようにするため、歴史マンガの基本的性格と歴史マンガを批判的に読み解くための基本的着眼点を中心内容とすることである。歴史上の同じ人物や出来事を扱っていてもマンガによって描き方が異なりうること、歴史マンガは歴史上の人物や出来事の事実をそのままに再現したものではなく、作者が一定の意図のもとに主人公を中心に描いた物語作品であることという歴史マンガの基本的性格をA・B・Cの学習に共通の内容とする。また、この共通の内容に加え、Aの学習では、主人公が異なれば、歴史上の人物や出来事の描き方が異なることも、Bの学習では、主人公が同じであっても、評価する観点が異なれば、歴史上の人物や出来事の描き方が異なることも、Cの学習では、それらの両方ともを内容とする。歴史マンガの基本的性格についてはA・B・Cの学習に共通の内容と個別の内容とで構成する。さらに、ストーリー、歴史上の事象との関連、描写の特色、表現している内容、作者の視点・立場、表現の意図など⁵⁾、歴史マンガを批判的に読み解くための基本的着眼点をA・B・Cの学習に共通の内容とし、繰り返し学べるようにする。

第3は、歴史マンガについて学ぶための学習の対象についてであり、A・B・Cの何れの学習においても小学生にとって理解しやすい人物中心の歴史マンガの一部分を取り上げるが、それぞれの学習内容に基づいて取り扱いを変化させることである。この單元におけるメタヒストリー学習では、時間的な制約もあるため、歴史マンガを1冊丸ごと扱うことはしない。先行するヒストリー学習の内容に関連する事象について描いている一部分を扱う。Aの学習では、主人公が違う2つの対照的なマンガの描写を取り上げ、「織田信長の天下統一への歩みについて学んだことを活かして、2つのマンガを読み比べ、それらの違いの訳を考えてみましょう」という課題を設ける。Bの学習では、主人公が同じ2つの対照的なマンガの描写を取り上げ、「豊臣秀吉の天下統一への歩みについて学んだことを活かして、2つのマンガを読み比べ、それらの違いの訳を考えてみましょう」という課題を設ける。Cの学習では、1つのマンガの描写を取り上げ、「徳川家康の天下統一への歩みについて学んだこと、これまで歴史マンガについて学んできたことを活かして、1つのマンガを読み、その内容の訳を考えてみましょう」という課題を設ける。A・Bでは同一の事象に関する相異なる描写を対比的に扱わせ、それらの学習成果を活かしてCでは1つの描写に対して取り組ませる。歴史マンガの描写の選択においては、先行のヒストリー学習を活かして取り組めること、学習内容を学ぶことができること、児童にとって取り組みやすいことを重んじる。

第4は、歴史マンガの描写について取り組む学習の過程についてであり、児童がマンガの描写そのものの内容の理解とそのような描写の理由の認識とによって学習課題に取り組む一連の課題解決的過程として、A・B・Cのそれぞれの学習過程を構成すること、A・Bの学習では教師主導で課題解決を導き、Cの学習では児童主体の課題解決をねらうことである。メタヒストリー学習としては既存の歴史への対応の判断まですすめることもできるが⁶⁾、この單元における歴史マンガに関する学習では児童が批判的に読み解けるようになることをねらっているので、そこまでは学習に組み入れない。A・B・Cの何れの学習も、内容の理解と理由の認識とによる課題の解決に留める。尤も、同じような学習過程とするわけではなく、AとBの学習では、批判的に読み解くための基本的性格と基本的着眼点を確実に学べるようにするため、教師主導で課題解決を導き、Cの学習では、それらの理解や着眼点を用いて児童自身が批判的読解を行えるようにするため、児童主体の課題解決を重んじる。

第5は、描写の内容の理解や理由の認識を行うための学習の活動方法についてであり、比較を重視することである。A・Bの学習では、複数の描写の対比的な特色づけや視点・立場の対比的な分析により、内容の理解と理由の認識を行いやすくする。それらを踏まえて行うCの学習では、1つの描写のみを取り上げるが、相異なる描写を仮想させ、それらと比べながら特色づけや分析に取り組ませ、内容の理解と理由の認識にあたらせる。A・Bの学習からCの学習へと比較の難度を高めていく。

安土桃山時代単元においてヒストリー学習に後続するA・B・Cの3つのメタヒストリー学習は、このような5つのポイントに基づいて設計される。歴史マンガに関する各々のメタヒストリー学習の指導計画を次章以降で提示していこう。

Ⅲ 主人公が異なる複数の歴史マンガに関するメタヒストリー学習

1つめとして、織田信長の天下統一への歩みに関するヒストリー学習を踏まえて行うメタヒストリー学習Aの指導計画について提示したい。

このAの学習は、主人公の異なる複数の歴史マンガにおける同一事象の描写について取り組むメタヒストリー学習であり、織田信長と石山本願寺との戦いに関する2つの相異なる描写について取り上げる。その1つは、織田信長を主人公とする『学習漫画 日本の伝記 織田信長』における描写であり、織田信長が武装した石山本願寺と戦い、最初は苦戦していたが、最後は焼き討ちにして勝利するという場面を描いている⁷⁾。もう1つは、明智光秀を主人公とする『朝日ジュニアシリーズ 週刊マンガ日本史 明智光秀』における描写であり、石山本願寺に対して総攻撃をかけるよう織田信長に命じられた明智光秀が織田信長の命令に従って多くの人々を殺し、病床でそのことを苦しめて悪夢にうなされているという場面を描いている⁸⁾。両者では織田信長の顔の表現も対照的であり、前者では正義の味方のような精悍な顔つきであるのに対して、後者では残虐な悪人のような顔つきである。そのような2つのマンガの描写を取り上げ、「織田信長の天下統一への歩みについて学んだことを活かして、2つのマンガを読み比べ、それらの違いの訳を考えてみましょう」という課題を学習の課題とする。Aの学習ではこの学習課題の解決を教師主導の探究によってすすめる。その指導計画を、教師の発問・指示、教授・学習活動、資料、予想される答え／学ばせたい内容によって示したものが表2である。

表2 石山本願寺との戦いのマンガ描写に関するメタヒストリー学習(A)の指導計画

	発問・指示	教授・学習活動	資料	予想される答え／学ばせたい内容
ポイント1	○織田信長の天下統一への歩みについて学んだことを活かして、2つのマンガを読み比べ、それらの違いの訳を考えてみましょう。 ・2つの歴史マンガを読んでみましょう。 ・アのマンガとイのマンガは、どこで誰が何をしている場面を描いていますか。 ・これらの場面は歴史上の何の出来事について表していますか。教科書やノートや資料集を参考にしてもかまいません。	T:マンガを提示する T:学習課題を提示する T:指示する C:マンガを読む T:発問する C:答える T:発問する C:答える	ア・イ ア・イ	・アー石山本願寺に対して、織田信長軍が総攻撃をかけ、最初は苦戦していたが、最後は信長軍が本願寺を焼き討ちにして勝利するという場面。 ・イー石山本願寺に対して総攻撃をかけるよう織田信長に命じられた明智光秀は、織田信長の命令に従って多くの人々を殺し、病床でそのことを苦しめて悪夢にうなされているという場面。 ・これらの場面は織田信長が石山本願寺と戦ったという出来事について表している。

小学校歴史授業における語りとしての歴史マンガの取り扱い

パート1	<ul style="list-style-type: none"> 石山本願寺と戦った出来事とはどういう出来事ですか。 	<p>T:発問する C:答える T:補足説明する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 天下統一に向けて、一向宗の信者による一向一揆に長期にわたって苦しんでいた織田信長は、それらの総本山である石山本願寺と戦った。
	<ul style="list-style-type: none"> 2つの歴史マンガで事実のことかどうか疑わしいと思う箇所はありますか。 	<p>T:発問する C:答える</p>	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> アもイも、登場人物が話したり動いたりしていることは事実通りではないと思う。 アもイも、登場人物の顔は事実通りではないと思う。 イで明智光秀が石山本願寺を攻めた時、病気になったことは本当であるとしても、悪夢にうなされていることは事実かもしれないが事実でないかもしれないと思う。 マンガは過去の人物や出来事を扱っているが、事実通りではなく想像して描いている部分や大袈裟に描いている部分がある。 など
	<ul style="list-style-type: none"> 2つの歴史マンガは石山本願寺との戦いという同じ出来事を描いていますが、どのような点で異なっていますか。グループで話し合ってみましょう。 	<p>T:発問する C:グループで話し合う</p>	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> アはイにはない具体的な戦いの様子を扱っており、登場人物もアのほうが多い。 アは、石山本願寺側も戦う態勢に入っており、織田信長側が苦戦しており、両軍が対等に戦って信長側が勝ったというストーリーであるのに対して、イは、明智光秀が織田信長の命令のもと、一方的に石山本願寺を攻め、どんどん殺せという信長の命令に戸惑っているというストーリーである。 アでは織田信長は正義の味方のような力強い顔つきであるのに対して、イでは織田信長は残虐な悪人のような顔つきである。 など
	<ul style="list-style-type: none"> グループで話し合ったことを発表してください。 	<p>T:指示する C:発表する T:整理する</p>	<ul style="list-style-type: none"> アはイにはない具体的な戦いの様子を扱っており、登場人物もアのほうが多い。 アは、石山本願寺側も戦う態勢に入っており、織田信長側が苦戦しており、両軍が対等に戦って信長側が勝ったというストーリーであるのに対して、イは、明智光秀が織田信長の命令のもと、一方的に石山本願寺を攻め、どんどん殺せという信長の命令に戸惑っているというストーリーである。 アでは織田信長は正義の味方のような力強い顔つきであるのに対して、イでは織田信長は残虐な悪人のような顔つきである。 など
	<ul style="list-style-type: none"> アのマンガは読者にどんなことを伝えようとしているのでしょうか。 	<p>T:発問する C:答える</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> アのマンガは、織田信長が石山本願寺を攻めたことは天下統一のために必要な一つの段階であったと伝えようとしている。
	<ul style="list-style-type: none"> 一方、イのマンガは読者にどんなことを伝えようとしているのでしょうか。 	<p>T:発問する C:答える</p>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> イのマンガは、織田信長の石山本願寺攻めは酷いものであったので、それを担わされた明智光秀は辛かったと伝えようとしている。
	<ul style="list-style-type: none"> 2つのマンガを比べてみて、どんなことに気づきましたか。疑問に感じたことはありますか。 	<p>T:発問する C:答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> 歴史上の同じ人物や出来事を扱っているのにマンガによって描き方が異なること。

小学校歴史授業における語りとしての歴史マンガの取り扱い

				<ul style="list-style-type: none"> ・歴史上の同じ人物や出来事を扱っているのにマンガによって描き方が異なるのはどうしてか。
パート2	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの歴史マンガの主人公は誰でしょうか。 	<p>T:発問する C:答える T:補足説明する</p>	ア・イ	<ul style="list-style-type: none"> ・アの主人公は織田信長である。織田信長は、天下統一をめざした武将である。 ・イの主人公は明智光秀である。明智光秀は、織田信長の家来であったが、謀反を起こして信長を倒した武将である。
	<ul style="list-style-type: none"> ・織田信長が主人公であるアのマンガの作者は、どうして織田信長や石山本願寺との戦いをこのように描いているのでしょうか。 	<p>T:発問する C:答える</p>	ア	<ul style="list-style-type: none"> ・アのマンガの作者は、主人公である織田信長の立場にたち、信長が勇敢な武将であり、信長が石山本願寺を攻めたことは天下統一のために必要であったと読者に理解してほしいと考えている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・一方、謀反を起こした明智光秀が主人公であるイのマンガの作者は、どうして織田信長や石山本願寺との戦いをこのように描いているのでしょうか。 	<p>T:発問する C:答える</p>	イ	<ul style="list-style-type: none"> ・イのマンガの作者は、主人公である明智光秀の立場にたち、光秀が真面目で誠実な人間であり、信長が酷いことをしたので光秀の謀反は仕方なかったと読者に理解してほしいと考えている。
	<p>○2つの歴史マンガでは同じ人物、同じ出来事を描いているのに、それらの描き方が異なっているのはどうしてでしょうか。</p>	<p>T:発問する C:答える T:補足説明する</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・歴史マンガは歴史上の人物や出来事の事実をそのままに再現したものではなく、作者が一定の意図のもとに主人公を中心に描いた物語作品である。したがって、主人公が異なれば、歴史上の人物や出来事の描き方が異なる。
	<p>○今回の歴史マンガについての学習で、歴史マンガを読むときにどのような点に眼を向けることが大切でしたか。</p>	<p>T:発問する C:答える T:補足説明する</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・歴史マンガのストーリー、歴史上の事象との関連、歴史上の事象の描写の特色、表現している内容、作者の視点・立場、表現の意図に眼を向ける必要がある。

[資料] ア：永原慶二監修／木村茂光立案・構成／柳川創造シナリオ／かたおか徹治漫画『学習漫画 日本の伝記 織田信長』，集英社，1988年発行（2011年第28刷），pp.110-113.

イ：河合敦・山口正監修／片山誠漫画『朝日ジュニアシリーズ 週刊マンガ日本史 38 明智光秀』，朝日新聞出版，2015年発行，pp.22-23.

学習の全体は、教師主導の探究によって課題解決をすすめる2つのパートからなる。パート1は、織田信長と石山本願寺の戦いに関する2つの描写の内容を捉える学習であり、パート2は、そのような描写の理由を探る学習である。

パート1では、2つのマンガの描写それぞれのストーリーを読み取った上で、それらが織田信長と石山本願寺の戦いという歴史上の事象について扱っていることを教科書・ノートや資料集を用いて確認する。そうして、2つの描写において事実かどうか疑わしい点を挙げさせたり、石山本願寺との戦いという同一の事象を扱っている2つの描写において相異なっている点をグループワークで見つけさせたりすることにより、それぞれの描写を対比的に特色づけ、石山本願寺との戦いについて各々のマンガの描写が読者に伝えようとしている内容を考える。このようなパート1の学習において児童は、一方の描写は織田信長が石山本願寺を攻めたことは天下統一のために必要な一つの段階であったと伝えようとしていること、もう一方の描写は織田信長の石山本願寺攻めは酷いものであったので、それを担わされた明智光秀は辛かったと伝えようとしていること、歴史上の同じ人物や出来事を扱っていてもマンガによって描き方が異なりうることを掴むことができる。

パート2では、2つのマンガの主人公が異なっていることを確認し、その上で各々の作者の視点・立場や意図を対比的に分析する。そうして、それらをもとにして、歴史上の同一の事象を扱っているにも拘わらず描写が異なる訳を考える。このようなパート2の学習において児童は、一方のマンガの作者は主人公である織田信長の立場にたっており、信長が勇敢な武将であり、信長が行った石山本願寺攻めは天下統一に向けて必要であったと読者に理解してほしいと考えていること、もう一方のマンガの作者は主人公である明智光秀の立場にたっており、光秀が真面目で誠実な人間であり、信長が酷いことをしたので光秀の謀反は仕方なかったと読者に理解してほしいと考えていること、歴史マンガは歴史上の人物や出来事の事実をそのままに再現したものではなく、作者が一定の意図のもとに主人公を中心に描いた物語作品であること、したがって、主人公が異なれば歴史上の人物や出来事の描き方が異なることを捉えることができる。

このような2つのパートによる課題解決により、児童は歴史マンガの基本的性格とともに、ストーリー（登場人物、場面など）、歴史上の事象との関連、歴史上の事象の描写の特色（誇張・創作を含む）、表現内容、作者の視点・立場、表現の意図という読解のための着眼点を学ぶことができる。

IV 主人公が同じである複数の歴史マンガに関するメタヒストリー学習

次に、2つめとして、豊臣秀吉の天下統一への歩みに関するヒストリー学習を踏まえて行うメタヒストリー学習Bの指導計画について提示したい。

Bの学習は、主人公が同じである複数の歴史マンガにおける同一事象の描写について取り組むメタヒストリー学習であり、豊臣秀吉の検地（太閤検地）に関する2つの相異なる描写について取り上げる。1つは、『コミック版日本の歴史②戦国人物伝 豊臣秀吉』（ポプラ社）における描写である。このマンガでは、豊臣秀吉が行った検地での検地奉行石田三成と農民のやりとりの場面を取りあげ、検地を農民にとって良いものとして描いている⁹⁾。もう1つは、『学習漫画 日本の伝記 豊臣秀吉』（集英社）における描写である。このマンガでは、豊臣秀吉が行った検地での役人と農民のやりとり、その後の農民同士のやりとりの場面を取りあげ、検地を農民にとって厳しいものとして描いている¹⁰⁾。両者では農民にとっての検地の意味づけが対照的である。そのような2つのマンガの描写を取り上げ、「豊臣秀吉の天下統一への歩みについて学んだことを活かして、2つのマンガを読み比べ、それらの違いの訳を考えてみましょう」という課題を学習課題とする。Bの学習はこの学習課題の解決を教師主導の探究によってすすめるものである。その指導計画を、教師の発問・指示、教授・学習活動、資料、予想される答え／学ばせたい内容によって示したものが表3である。

表3 検地のマンガ描写に関するメタヒストリー学習(B)の指導計画

	発問・指示	教授・学習活動	資料	予想される答え／学ばせたい内容
パート1	○豊臣秀吉の天下統一への歩みについて学んだことを活かして、2つのマンガを読み比べ、それらの違いの訳を考えてみましょう。 ・2つの歴史マンガを読んでみましょう ・ウのマンガとエのマンガは、どこで誰が何をしている場面を描いていますか。	T:マンガを提示する T:学習課題を提示する T:指示する C:マンガを読む T:発問する C:答える	ウ・エ ウ・エ	・ウー豊臣秀吉が行った検地で検地奉行の石田三成と農民のやりとりの様子を描いている。

小学校歴史授業における語りとしての歴史マンガの取り扱い

<p>パート1</p>	<ul style="list-style-type: none"> これらの場面は歴史上の何の出来事のことですか。教科書やノートや資料集を参考にしてもかまいません。 検地とはどういうものですか。 2つの歴史マンガで事実のことかどうかわからないと思う箇所はありますか。 2つの歴史マンガは検地という同じ出来事を描いていますが、どのような点で異なっていますか。 ウのマンガは読者に対して、検地のどんなところを強調しているでしょうか。 一方、エのマンガは読者に対して、検地のどんなところを強調しているでしょうか。 2つのマンガを比べてみて、どんなことに気づきましたか。疑問に感じたことはありますか。 	<p>T:発問する C:答える</p> <p>T:発問する C:答える T:補足説明する</p> <p>T:発問する C:答える</p> <p>T:発問する C:答える</p> <p>T:発問する C:答える</p> <p>T:発問する C:答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> エー豊臣秀吉が行った検地で役人と農民のやりとりの様子、その後での農民同士のやりとりの様子を描いている。 これらの場面は検地（太閤検地）の様子を描いている。 検地とは、豊臣秀吉による農民支配の政策であり、田畑の面積を実際にはかり、その土地に一人の耕作人を記録することにより、耕作人の権利を認めるかわりに年貢をとることにした。 ウもエも、登場人物が話したり動いたりしていることは事実通りではないと思う。 ウもエも、登場人物の顔は事実通りではないと思う。 マンガは過去の人物や出来事を扱っているが、事実通りではなく想像して描いている部分や大袈裟に描いている部分がある。 検地についてエは3頁分も割いているが、ウは1頁分しか割いていない。 ウでは、「作合はもうなくなるから安心せい」という検地奉行石田三成の発言、「これからはわたらの田んぼになるのか!!」という農民の発言により、太閤検地を農民にとって良いものとして描いている。それに対して、エでは、面積の単位や個々の田畑の等級を豊臣秀吉に有利となるように定め、災害があっても年貢を軽くしてくれないなど、太閤検地を農民にとって厳しいものとして描いている。 ウのマンガは、検地が個々の田畑に一人のみの耕作人を認め、個々の田畑を耕作人のものにしたという点に焦点をあわせ、検地は農民のためになったと強調している。 エのマンガは、検地が面積の単位や個々の田畑の等級が農民にとって不利となるように決められ、災害があっても年貢を軽くしてもらえないという点に焦点をあわせ、検地は豊臣秀吉のための政策であったと強調している。 歴史上の出来事を扱っているのにマンガによって描き方が異なること。 歴史上の出来事を扱っているのにマンガによって描き方が異なるのはどうしてか。主人公が違うのだろうか。
-------------	--	--	--

小学校歴史授業における語りとしての歴史マンガの取り扱い

パート 2	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの歴史マンガの主人公は誰でしょうか。 	<p>T:発問する C:答える T:補足説明する</p>	ウ・エ	<ul style="list-style-type: none"> ウもエも、豊臣秀吉を主人公とする歴史マンガの一部である。
	<ul style="list-style-type: none"> ウのマンガの作者は、主人公である豊臣秀吉を良く描こうとするはずですが、どうして検地をこのように描いているのでしょうか。グループで話し合ってみましょう。 	<p>T:発問する C:グループで話し合う</p>	ウ	
	<ul style="list-style-type: none"> グループで話し合ったことを発表してください。 	<p>T:指示する C:発表する T:補足説明する</p>		<ul style="list-style-type: none"> ウのマンガの作者は、主人公である豊臣秀吉の立場にたち、検地が農民のためになる良い政策であり、そのような政策をとった秀吉は農民思いのすばらしい政治家であったと考え、それを読者に理解してほしいと願っている。 など
	<ul style="list-style-type: none"> エのマンガの作者も、主人公である豊臣秀吉を良く描こうとするはずですが、どうして検地をこのように描いているのでしょうか。エのマンガの作者の意図と比べながら、グループで話し合ってみましょう。 	<p>T:発問する C:グループで話し合う</p>	エ	
	<ul style="list-style-type: none"> グループで話し合ったことを発表してください。 	<p>T:指示する C:発表する T:補足説明する</p>		<ul style="list-style-type: none"> エのマンガの作者は、主人公である豊臣秀吉の立場にたち、検地は農民にとって不利な面があったことは確かであるが、農民を支配する、天下を治めるという点からみれば優れた政策であり、そのような政策をとった秀吉は頭の良いすばらしい政治家であったと考え、それを読者に理解してほしいと願っている。 など
○2つの歴史マンガでは同じ人物の同じ政策を描いているのに、それらの描き方が異なっているのはどうしてでしょうか。	<p>T:発問する C:答える T:補足説明する</p>		<ul style="list-style-type: none"> 歴史マンガは歴史上の人物や出来事の事実をそのままに再現したものではなく、作者が一定の意図のもとに主人公を中心に描いた物語作品である。したがって、主人公が同じでも、評価する観点が異なれば、歴史上の人物や出来事の描き方が異なる。 	
○前回の歴史マンガについての学習につづき、今回の歴史マンガについての学習でも、歴史マンガを読むときにどういふ点に眼を向けることが大切でしたか。	<p>T:発問する C:答える T:補足説明する</p>		<ul style="list-style-type: none"> 歴史マンガのストーリー、歴史上の事象との関連、歴史上の事象の描写の特色、表現している内容、作者の視点・立場、表現の意図に眼を向ける必要がある。 	

[資料] ウ：加来耕三企画・構成・監修／すぎたとおる原作／瀧玲子作画『コミック版日本の歴史②戦国人物伝 豊臣秀吉』、ポプラ社、2007年発行（2016年第24刷）、pp. 86。
エ：永原慶二監修／蔵持重裕立案・構成／柳川創造シナリオ／久松文雄漫画『学習漫画 日本の伝記 豊臣秀吉』、集英社、1988年発行（2014年第26刷）、pp. 93-95。

Bの学習の全体は、2つのパートからなる。パート1は、豊臣秀吉の検地に関する2つの描写の内容を捉える学習であり、パート2は、そのような検地に関する描写の理由を探る学習である。

パート1では、2つのマンガの描写を取り上げ、それぞれのストーリーを読み取った上で、それが豊臣秀吉の検地という歴史上の事象について扱っていることを教科書・ノートや資料集を用いて確認する。そうして、2つの描写において事実かどうか疑わしい点を挙げたり、豊臣秀吉の検地という同一の事象を扱っている2つの描写において相異なっている点を見つけたりすることにより、それぞれの描写を対比的に特色づけ、検地について各々のマンガの描写が読者に伝えようとしている内容を考える。このパート1の学習において児童は、一方の描写は検地が個々の田畑に一人のみの耕作人を認め、個々の田畑を耕作人のものにしたという点に焦点をあわせ、検地は農民のためになったと伝えようとしていること、もう一方の描写は検地が面積の単位や個々の田畑の等級を支配者である豊臣秀吉に都合よく決め、災害があっても年貢を軽くしないという点に焦点をあわせ、検地が秀吉のための政策であったと伝えようとしていること、歴史上の同じ出来事を扱っていてもマンガによって描き方が異なりうることを掴むことができる。

パート2では、2つのマンガの主人公が同じであることを確認した上で、主人公である豊臣秀吉を肯定的に描こうとするはずである各々のマンガの作者の意図をグループワークで対比的に探る。そうすることで歴史上の同一の事象を扱っているにも拘わらず描写が異なる訳を考える。このパート2の学習によって児童は、一方のマンガの作者は主人公である豊臣秀吉の立場にたち、検地は農民のためになる良い政策であり、そのような政策をとった秀吉は農民思いのすばらしい政治家であったと読者に理解してほしいと考えていること、もう一方のマンガの作者は主人公である豊臣秀吉の立場にたち、検地は農民にとって不利な面があったことは確かであるが、農民を支配することや天下を治めることという点からみれば優れた政策であり、そのような政策をとった秀吉は頭の良いすばらしい政治家であったと読者に理解してほしいと考えていること、歴史マンガは歴史上の人物や出来事の事実をそのままに再現したものではなく、作者が一定の意図のもとに主人公を中心に描いた物語作品であること、したがって、主人公が同じ人物であっても、評価する観点が異なれば、歴史上の人物や出来事の描き方が異なることを捉えることができる。

このような2つのパートによる課題解決により、児童は歴史マンガの基本的性格の理解を拡げるとともに、ストーリー（登場人物、場面など）、歴史上の事象との関連、歴史上の事象の描写の特色（誇張・創作を含む）、表現内容、作者の視点・立場、表現の意図という先のAの学習で学んだ読解のための着眼点を再確認することができる。

V 単数の歴史マンガに関するメタヒストリー学習

3つめとして、徳川家康の天下統一への歩みに関するヒストリー学習を踏まえて行うメタヒストリー学習Cの指導計画について提示したい。

織田信長の石山本願寺攻めの描写に関するAの学習、豊臣秀吉の検地の描写に関するBの学習により、歴史上の同じ人物や出来事を扱っていてもマンガによって描き方が異なりうること、歴史マンガは歴史上の人物や出来事の事実をそのままに再現したものではなく、作者が一定の意図のもとに主人公を中心に描いた物語作品であること、したがって、主人公が異なれば、歴史上の人物や出来事の描き方が異なること、主人公が同じであっても、評価する観点が異なれば、歴史上の人物や出来事の描き方が異なることを児童はすでに学んでいる。また、歴史マンガを読むときにはストーリー、歴史上の事象との関連、歴史上の事象の描写の特色、表現している内容、作者の視点・立場、表現の意図に眼を向ける必要があることもすでに学んでいる。そこで、Cの学習では、このような基本的性格の理解や基本的な着眼点を用いる児童主体の探究によって、単数の歴史マンガにお

ける描写について取り組ませる。そのために関ヶ原の戦いについて徳川家康の立場から描かれたマンガの描写を取りあげる。それは『学習漫画 世界の伝記 徳川家康』（集英社）における描写であり、関ヶ原の戦いへと至る過程での家康と家臣とのやりとりを扱い、家康がいくさのない平和な世の中にしたいという思いから戦いを決断したと描いている¹¹⁾。そのような1つの描写について、「徳川家康の天下統一への歩みについて学んだこと、これまで歴史マンガについて学んできたことを活かして、1つのマンガを読み、その内容の訳を考えてみましょう」という学習課題を設け、児童主体の探究によって課題解決に取り組ませる。その指導計画は表4の通りである。

表4 関ヶ原の戦いのマンガ描写について取り組むメタヒストリー学習(C)の指導計画

発問・指示	教授・学習活動	資料	予想される答え／学ばせたい内容
<ul style="list-style-type: none"> 歴史マンガに関する2度の学習でどんなことがわかりましたか。 	T:発問する C:答える		<ul style="list-style-type: none"> 歴史上の同じ人物や出来事を扱っていてもマンガによって描き方が異なりうること。 歴史マンガは歴史上の人物や出来事の実をそのままに再現したものではなく、作者が一定の意図のもとに主人公を中心に描いた物語作品であること、したがって、主人公が異なれば、歴史上の人物や出来事の描き方が異なること、また、主人公が同じでも、評価する観点が異なれば、歴史上の人物や出来事の描き方が異なること。
<ul style="list-style-type: none"> 歴史マンガを読み解くときにはどういった点に眼を向けることが大切でしたか。 	T:発問する C:答える		<ul style="list-style-type: none"> 歴史マンガのストーリー、歴史上の事象との関連、描写の特色、表現内容、作者の視点・立場、表現の意図など
<ul style="list-style-type: none"> それでは、オのマンガを読んでみましょう。 	T:提示する C:マンガを読む	オ	
○徳川家康の天下統一への歩みについて学んだこと、これまで歴史マンガについて学んできたことを活かして、1つのマンガを読み、その内容の訳を考えてみましょう。	T:学習課題を提示する		
<ul style="list-style-type: none"> オのマンガは、どこで誰が何をしている場面を描いていますか。 	T:発問する C:答える	オ	<ul style="list-style-type: none"> 大坂城で徳川家康と家臣たちが話している場面。
<ul style="list-style-type: none"> これらの場面は歴史上の何の出来事と関連がありますか。教科書やノートや資料集を参考にしてもかまいません。 	T:発問する C:答える		<ul style="list-style-type: none"> 関ヶ原の戦いと関連がある。
<ul style="list-style-type: none"> 関ヶ原の戦いとはどういうものですか。 	T:発問する C:答える T:補足説明する		<ul style="list-style-type: none"> 関ヶ原の戦いは、豊臣秀吉の死後、徳川家康が率いる東軍と石田三成が率いる西軍とが戦った天下分け目の戦いである。この戦いに勝利した徳川家康が江戸幕府を開いた。
<ul style="list-style-type: none"> オのマンガは読者に対して何を伝えようとしているでしょうか。また、それを伝えようとするのはどうしてでしょうか。 	T:発問する C:グループで話し合う	オ	

小学校歴史授業における語りとしての歴史マンガの取り扱い

<p>もし、別の人物を主人公とするマンガがあるとしたら、そのマンガでは関ヶ原の戦いはどのように描かれるか、もし、主人公が同じ人物でも評価の観点が異なるマンガがあるとしたら、そのマンガでは関ヶ原の戦いはどのように描かれるかを想像しながら、ワークシートをもとにグループで話し合ってください。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> オのマンガは読者に対して何を伝えようとしているか、それを伝えようとするのはどうしてか、グループで話し合ったことを発表してください。 	<p>T: 指示する C: 発表する</p>	<ul style="list-style-type: none"> オのマンガの作者は、主人公である徳川家康の立場にたち、この世からいくさをなくすためならば裏切り者と呼ばれようともかまわないと考える素晴らしい人物であり、関ヶ原の戦いは家康が平和をうみだした有意義な戦いであったと読者に理解してほしいと考えていること、そのために関ヶ原の戦いへと至る過程での家康と家臣とのやりとりを扱い、家康がいくさのない平和な世の中にしたいという思いから戦いを決断したと描いている。 など
<ul style="list-style-type: none"> オのマンガを読み解いたとき、関ヶ原の戦いで敗れた石田三成を主人公とするマンガでは関ヶ原の戦いがどのように描かれると予想したか、グループで話し合ったことを発表してください。 	<p>T: 指示する C: 発表する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作者は石田三成の立場にたち、家康は豊臣秀吉との約束を破って天下を奪って自分が権力を握ろうとした卑怯者であり、それを阻止しようとした立ち上がったのが石田三成であると理解してほしいために、関ヶ原の戦いは家康のせいでは起きたものと描くのではないか。 など
<ul style="list-style-type: none"> オのマンガを読み解いたとき、主人公が同じ徳川家康でも評価の観点が異なるマンガでは関ヶ原の戦いはどのように描かれると予想したか、グループで話し合ったことを発表してください。 	<p>T: 指示する C: 発表する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作者は徳川家康の立場にたち、家康は天下をとるに相応しい戦い上手の武将であると理解してほしいために、関ヶ原の戦いは不利であった家康が策を練って勝利したものと描くのではないか。 など
<ul style="list-style-type: none"> オのマンガは読者に対して何を伝えようとしているか、それを伝えようとするのはどうしてか、皆で意見交換しましょう。 	<p>T: 発問する C: 意見交換する</p>	<p>(省略)</p>
<ul style="list-style-type: none"> 石田三成を主人公にした歴史マンガの描写、徳川家康を主人公にした別のマンガの描写を紹介します。 	<p>T: 別のマンガの描写を提示する C: マンガを読み比べて確かめる</p>	<p>カ・キ</p>
<p>○歴史マンガとはどういうものか、改めて確認できたことは何ですか。</p>	<p>T: 発問する C: 答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> 歴史マンガは歴史上の人物や出来事の事実をそのままに再現したものではなく、作者が一定の意図のもとに主人公を中心に描いた物語作品であるため、主人公が異なれば、歴史上の人物や出来事の描き方が異なること、また、主人公が同じでも、評価する観点が異なれば、歴史上の人物や出来事の描き方が異なること。

小学校歴史授業における語りとしての歴史マンガの取り扱い

<p>○そのような性格のある歴史マンガを読むときにどういうことに気を付けるとよいと感じましたか。</p>	<p>T: 発問する C: 答える</p>	<p>・ 1つの歴史マンガを読むときときにも、別の主人公のマンガや同じ主人公でも評価の観点が異なるマンガがあると考え、それらの描き方を想像しながら読むこと。歴史マンガのストーリー、歴史上の事象との関連、歴史上の事象の描写の特色、表現している内容、作者の視点・立場、表現の意図に眼を向けること。</p>
<p>・ これまでの歴史学習で扱った出来事の中で、マンガによって描き方が異なると予想できるものはありますか。</p>	<p>T: 発問する C: 答える</p>	<p>・ 大化の改新、源平の戦い、源頼朝と源義経の対立、承久の乱、元寇、長篠の戦い……</p>

[資料] オ：桑田忠親監修／三上修平シナリオ／後藤長男漫画『学習漫画 世界の伝記 徳川家康』，集英社，1984年発行（2011年第2版第18刷），pp.116-117.
 カ：河合敦・山口正監修／大島やすいち漫画『朝日ジュニアシリーズ 週刊マンガ日本史 45 石田三成』，朝日新聞出版，2016年発行，pp.22-23.
 キ：加来耕三企画・構成・監修／すぎたとおる原作／丹波鉄心作画『コミック版日本の歴史③戦国人物伝 徳川家康』，ポプラ社，2007年発行（2017年第26刷），pp.78-81.

表4の通り、冒頭では、既習の歴史マンガの基本的性格と読解のための基本的着眼点について再確認し、その上で学習課題を設定する。基本的着眼点のなかのストーリー、歴史上の事象との関連に関しては、クラス全体で考察を行い、関ヶ原の戦いへと向かう過程での家康と家臣とのやりとりを扱っていることを掴み、学習課題の課題に向けて皆が同じ出発点にたてるようにする。そうして、これまでの学習の成果を活かし、別の人物を主人公とするマンガがあるとしたら、そのマンガでは関ヶ原の戦いはどのように描かれるだろうか、主人公が同じ人物でも評価の観点が異なるマンガがあるとしたら、そのマンガでは関ヶ原の戦いはどのように描かれるかを想像させながら、学習課題に取り組ませる。

児童は関ヶ原の戦いの別の描写を仮想しつつ、歴史上の事象の描写の特色と表現している内容、作者の視点・立場と表現の意図という着眼点を踏まえ、グループワークで取り組み、その後クラス全体でも話し合う。それらを通して児童は、家康と対戦した石田三成が主人公の歴史マンガにおける関ヶ原の戦いの描写を仮想したり、家康を主人公とする他の歴史マンガにおける異なる描写を仮想したりするなどし、それらと比べて対象のマンガの描写を読み解く。例えば、石田三成の立場にたち、家康は豊臣秀吉との約束を破って天下を奪い自分が権力を握ろうとした卑怯者であり、それを阻止しようと立ち上がったのが石田三成であると理解してほしいために、関ヶ原の戦いは家康のせいで起きたものと伝えようとする描写、徳川家康の立場にたち、家康は天下をとるに相応しい戦い上手であると理解してほしいために、関ヶ原の戦いは不利であった家康が策を練って勝利したものと伝えようとする描写などを仮想すると想定される。それらの仮想の描写と対比しつつ、児童は関ヶ原の戦いに関する描写としての特色を見出し、このマンガの描写が読者に伝えようとしている内容を捉える。とともに、マンガの主人公を特定し、主人公である徳川家康を肯定的に描こうとする作者の視点・立場や意図をもとに描写の訳を探る。このマンガの作者は主人公である徳川家康の立場にたち、関ヶ原の戦いは家康が平和をうみだした有意義な戦いであったと読者に理解してほしいと考えていること、そのために関ヶ原の戦いへと向かう過程での家康と家臣とのやりとりを扱い、家康がいくさのない平和な世の中にしたいという思いから戦いを決断したと描いていることを捉える。

このように、教師主導の探究によるA・Bの学習を踏まえての児童主体の探究によるCの学習により、児童は歴史マンガの基本的性格を改めて確認するとともに、読解のための基本的着眼点の使

用に習熟し、小学生向けの平易な歴史マンガの描写を相対化し批判的に読解できるようになる。

VI おわりに

最後に、以上を踏まえ、小学校歴史授業での歴史マンガに関する現実的で効果的なメタヒストリー学習のための方略として、次の3点を指摘しよう。

第1は、個々の時代について扱う個別の単元のなかでヒストリー学習にメタヒストリー学習を後続させることである。そうすることで短時間ずつであってもメタヒストリー学習の機会を保障することができる。とともに、児童がヒストリー学習の成果を即座に活かして歴史マンガに取り組めるようにすることもできる。

第2は、歴史マンガを丸ごと1冊扱うのではなく、その一部の描写を限定して取り上げること、また、対照的な描写の比較分析など、児童にとって描写の内容や理由を捉えやすく、歴史マンガの基本的性格や批判的な読解のための基本的着眼点を学びとりやすい学習を採用することである。時間的な制約のなかで効果をねらうために描写を限定して比較させ、描写そのものの対比的な特色づけや視点・立場の対比的な分析によって、語り（ナラティブ）としてのマンガ描写の読解に取り組みませ、過去について表したのものから現在においてつくられたものへと歴史マンガの見方を転換させることが必要である。

第3は、主人公が違う複数の対照的な描写の比較分析から、主人公が同じ複数の対照的な描写の比較分析、異なる描写の仮想に基づく単数の描写の分析へと段階的に難度を高めること、また、教師主導の探究的な学習において、語り（ナラティブ）としての歴史マンガの基本的性格や批判的な読解の基本的着眼点を学ばせた上で、児童主体の探究的な学習において、それらの理解や着眼点を活かして取り組ませることである。マンガに関するメタヒストリー学習を単発的に実施するのではなく、様々な学習を組み合わせることによって、歴史マンガを批判的に読み解くための能力を段階的に育成していくことができる。

このような3点は、安土桃山時代単元とは別の単元における歴史マンガの取り扱いについては勿論のこと、社会のなかの他の歴史に関するメタヒストリー学習を可能にするためにも手がかりとなると考えられる。社会に溢れる様々な歴史と熟考的にかかわっていくための基礎を育むべく、歴史マンガだけでなく身のまわりの様々な歴史に関するメタヒストリー学習を小学校の歴史授業においても可能にしていくため、それらの現実的で効果的な在り方を追究することが課題となる。

註

- 1) 歴史的な題材を扱うマンガを本稿では、歴史マンガと呼ぶ。ここでいう歴史マンガとは、過去の時代に描かれたマンガすなわち史料としてのマンガではなく、歴史的な題材を扱う現在のマンガすなわち歴史叙述としてのマンガである。歴史マンガという用語は、『歴史評論』No.530(1994年6月)の特集「歴史学とマスメディア—史実とフィクションのあいだ」においても、歴史的な題材を扱うマンガを指す言葉として用いられている。

なお、マンガについて、大澤真幸ほか編『現代社会学事典』(弘文堂、2012年)では、「線で描かれた人物(キャラクター)がひとつ、または複数のコマに配置され、物語や風刺を伝える表現形式。」(p.1217)、石川弘義ほか編『[縮刷版]大衆文化事典』(弘文堂、1994年)では、「複数のコマを構成単位とするデフォルメされた絵によって、諷刺、滑稽味ないしは物語を伝える文芸形式。」(p.753)と定義されている。また、マンガをマンガで論じるスコット・マクラウド(岡田斗司夫監訳)『マンガ学』(美術出版社、1998年)では、「意図的に連続性をもって並置さ

れた絵画的イメージやその他の画像。情報伝達や見る者の感性的な反応を刺激することを目的として描かれる。」(p. 17) と定義されている。

- 2) 服部一秀「年代史的カリキュラムにおいて過去の取り扱いの探究能力を育成する方略ーザクセン・アンハルト州中等学校の2012年版歴史科の場合ー」, 日本社会科教育学会『社会科教育研究』No.123, 2014年, 参照。
- 3) 既存の歴史との熟考的なかわり方を育む中学校授業の開発研究として, 服部一秀・細入はるか・王瀝彬「現代社会における過去の取り扱いを探究する中学校歴史授業ー「信玄公祭り」ー」, 山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター研究紀要『教育実践学研究』No.19, 2014年, 他。
- 4) 社会のなかの歴史に関するメタヒストリー学習の基本構想については差し当たり, 服部一秀「社会のなかの歴史に関するメタヒストリー学習の意義ードイツの歴史教科書『歴史と出来事ーテューリンゲン州版』を手がかりにしてー」, 社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第28号, 2016年を参照されたい。
- 5) これらの基本的着眼点は, M.Sauer (Hrsg.), *Geschichte und Geschehen, Ausgabe für Thüringen 5/6*, Ernst Klett, 2012, S.156-159などを参考にして設定した。
- 6) 服部前掲論文, 2016 を参照されたい。
なお, 小学校の歴史教育のなかでも個別の時代について扱う単元であることを考慮し, A・B・Cの3つのメタヒストリー学習では描写の理由の認識をねらうものの, その背景の認識まではねらっていない。終結単元においてメタヒストリー学習を行うのであれば, また, 中学校の歴史教育でメタヒストリー学習を行うのであれば, 社会的文脈の分析による背景の認識もねらいたい。
- 7) 永原慶二監修/木村茂光立案・構成/柳川創造シナリオ/かたおか徹治漫画『学習漫画 日本の伝記 織田信長』, 集英社, 1988年発行(2011年第28刷), pp.110-113.
- 8) 河合敦・山口正監修/片山誠漫画『朝日ジュニアシリーズ 週刊マンガ日本史38 明智光秀』, 朝日新聞出版, 2015年発行, pp. 22-23.
- 9) 加来耕三企画・構成・監修/すぎたとおる原作/瀧玲子作画『コミック版日本の歴史②戦国人物伝 豊臣秀吉』, ポプラ社, 2007年発行(2016年第24刷), pp. 86.
- 10) 永原慶二監修/蔵持重裕立案・構成/柳川創造シナリオ/久松文雄漫画『学習漫画 日本の伝記 豊臣秀吉』, 集英社, 1988年発行(2014年第26刷), pp. 93-95.
- 11) 桑田忠親監修/三上修平シナリオ/後藤長男漫画『学習漫画 世界の伝記 徳川家康』, 集英社, 1984年発行(2011年第2版第18刷), pp. 116-117.

本研究は, J S P S 科研費26381189の助成を受けたものである。